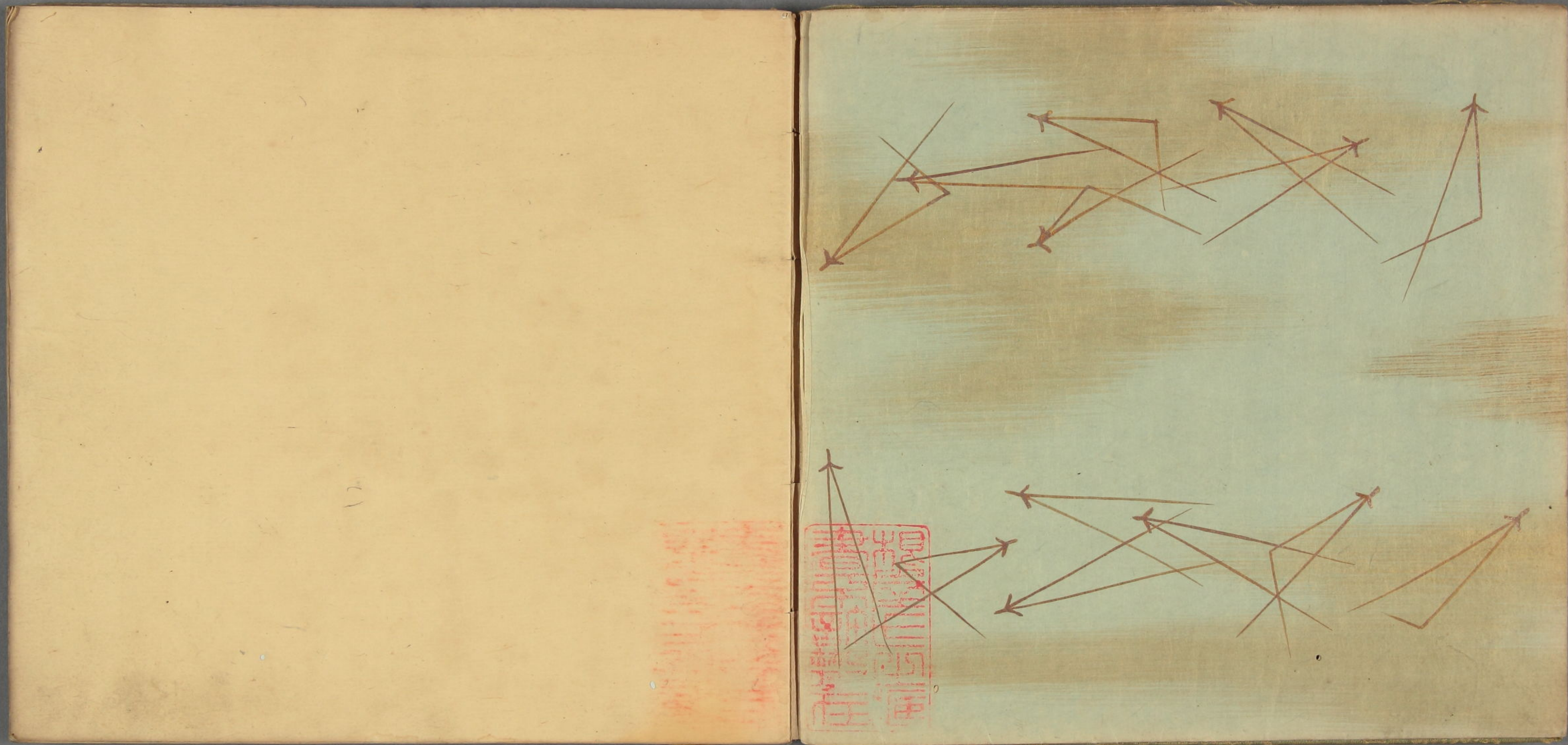
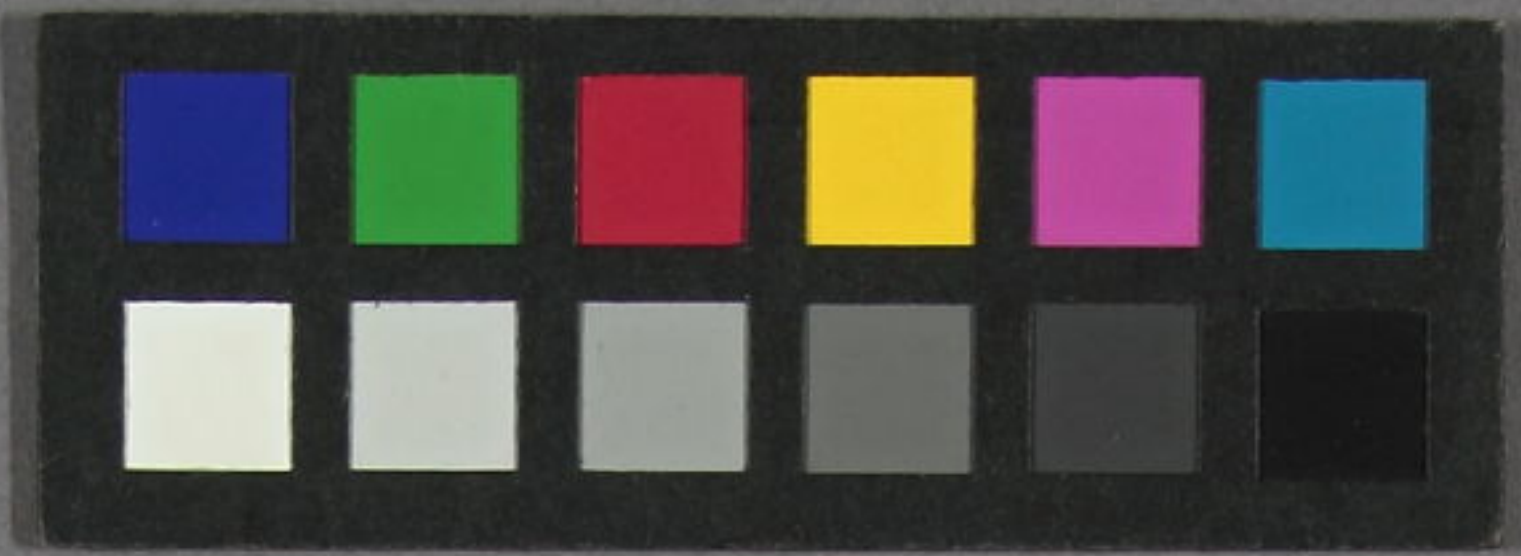


後拾遺和歌集上

特別  
イ 4  
3163  
8

























此林の敷居をいひはくしとていひはくし  
をみこせつみとせよなりぬせはかおれし  
しんのまののくれのあさ農のよひのこ  
わひえりひとつらぬかまといふ人ありま  
りし

後拾遺和歌集第一

春上

正月一日後拾遺歌 小大君

いふ歌くあつあつとていふとていふとていふとて  
みちれとていふとていふとていふとていふとて

老初法師母

わく見よ今もあはれをいふとていふとていふとていふとて

源師賢法師

東海なるていふとていふとていふとていふとていふとて

橘後総持

おぼれ開をいふとていふとていふとていふとていふとて

大申長新宣法師

まればなるていふとていふとていふとていふとていふとて  
とていふとていふとていふとていふとていふとて





のきびしく竹をれいふたなり

人なれあ入ぬとさひいしむく年と山海を越りこみ  
山守りて正月のきりのあけりよふたなり

年意感

きりてふふまよふ心黒いんらーいよりきれん  
加賀の備門

題三つ

新しききりれも力もあつて年分つてね指しをむる  
天曆三年右政大臣の七十賀をゆかり屏風  
よふたなり 大申片新室のゆかり

たれはけの苦めささひけとさむりきいふあ

一筆院のね時敏三人長の前とていひゆりたれ

ふたなり

年意感

みながいきれぬとていふあめむしとわられたりきなりまよ

花山院のきかえあふよふたなり

右京七能

昔はきりぬとていふゆかりぬきあふいふりよふたなり



題三つ

右京七能

まごころのいれぬとていふゆかりぬきあふいふりよふたなり

和泉式部

春夜ちやとていふ山川の景ささるるきりぬきあふいふりよふたなり

病室とて七十賀月次屏風はね時敏三人長の前とていひゆりたれ

いふたなり

赤深

雲の袖とていふていふゆかりぬきあふいふりよふたなり

長門守のゆかり 小辨

むれていふたまのきりぬきあふいふりよふたなり

入道右大臣大隈のゆかり屏風はね時敏三人長の前とていひゆりたれ

いふたなり

右京補平

けきあけぬとていふゆかりぬきあふいふりよふたなり

おのり一屏風はね時敏三人長の前とていひゆりたれ

いふたなり

入道右大臣



春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて  
よの会一竹ありよあはれ

後人まゝ

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

鷹よよの竹あり  
大中原伝宣の下

心よとやさつし使さしんし  
正月二日おぼれりて  
春よせとやさつし使さしんし

せり  
源忠隆

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

よの竹あり  
後人まゝ

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

清原元福

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

竹ありよの竹あり

よの竹あり

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて

春よせとやさつし使さしんし  
民神々春急を御守り侍る時  
三み守りて











花うらやまなりさかみんはれ若れもるは梅の白  
屏風の冬よりしめれ花あり歌よかこころ  
ふちよよかたり 平慈威

梅うきもふりれ風や吹つらんきあつらんを思ふ  
あつらんのか合よりしめをよかたり  
大中長新定傳信

梅花よりあつらんきあつらんあやうらんあやうらん  
まの衣れやよあやうらんあやうらん  
前左衛門伝

まの衣の園よりあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん  
大徳寺

梅のこころあつらんあつらんあつらんあつらん  
村のこころあつらんあつらんあつらんあつらん  
せまやあつらんあつらんあつらんあつらん

梅花よりあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん  
清原元輔

梅花よりあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

心屋よりあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

残菊のほの梅れはつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらんあつらん







故之望城

あつむれ年を控つてとま柳れ糸いつ世は暮つたためつと

柳いせぬあをささくふとつらんをよめり

菅原政徳

池みれみくもささくささくささく柳のささくささくはなれり

題名なし

菅原元真

釣みさうりれてなひくも柳のまきささくはなれり

二月さうり良道法師ののりあつやとと

つれてゆきれいんくさつて花んまらんいてね

こささつてつひいさなふりのささくささくひてささく

あつげり

菅原孝基

まきばなつてはなれは柳まきまきあつひとささくはなれり

あつて花んまきささくささくささくささくささくささく

あつてささくささく

菅原隆俊

山梅ささく切道ささくはなれいんくささくささくささく

二月のささくささくはなれは後醍醐天皇のゆえん

あつてささくささくささくささくささくささくささく

白鳥文彦

うささくささくはなれは柳ささくささくささくささく

花んまきささくささくささくささくささくささく

あつてささくささく

後拾遺春九

菅原成助

小蘇はなれは柳ささくささくささくささくささく

題名なし

永原法師

梅はなれは柳ささくささくささくささくささく

中原致時

梅ささくは柳ささくささくささくささくささく

揚元俊

あつてささくささくささくささくささくささく

一条院はなれは柳ささくささくささくささく

あつてささくささくささくささくささくささく

源雅通朝臣



おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
感のぬ

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
後冷泉院の時のをんことと記すよま  
てあかきよまうたうたうたうたのぬこり  
まてさうりて竹のり

一 文 詠 何

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
今三の山時殿とのんく記すよまうたうた  
ふた又申されぬこりあそて人の記す  
つりつり

右大馬の香

あかきよまうたうたうたの香をよそよそしくはらふるは  
清子結ぶ花あかりの山屋よあかりあそよ  
みゆき

源忠光

今あかきよまうたうたの香をよそよそしくはらふるは  
祭る備前

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは

菅原為家

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
とまき花をたわねこりあそよま

小 辨

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
とまき又竹のあかりあそよま

三 東 門 院 中 納

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
白川院まき花をみてよまゆき

民 部 卿 長 教

おぼろけをうけてはつらつと梅の香をよそよそしくはらふるは  
東海れ今とつらつと白川の開もかき花の白  
あかきよまうたうたの香をよそよそしくはらふるは  
うへのまきこりあそよまゆき



よきすしり事やまゆめり

大氣之政

甚ていみじき梅の花もくも年々此様なりけり

花をわしむまふりてさるり

大中長徳宣物居

梅の花もふもあまふも此花さへあつておとわゆり

河原院よりつらふたの梅をみてさるり

平急威

道をこめていさるの梅の花をわすれずし海をぬ

夜思梅とらふんをさるり

徳因法師

梅咲甚ふりていさるわせいさるもあつていさる

梅をうらまえてぬらうなりゆきされぬ

かみり  
よみ人さるり

梅をさへいさるの梅の花もひびくかきさるり

とさるいさるさるりゆきみちの梅をい

やうきさるり  
いつてさるり

初人いさるりさるりせんれい梅一さるり

題さるり

人ともぬき梅を植たれ花もくやつてさるり

家前の梅もいさるりさるりさるり人ともたれ

通令法師

花もく人いさるり入るり甚いさるりさるり

雲或歌

世中を何れか梅もいさるりわなわなさるり

さるりさるりさるり花をみてさるり

若原云龍物居

花もくいさるりさるりさるりさるり

堀川右大臣の九条家より梅もいさるり

いさるりいさるり

前中洲云龍基

家前花梅もいさるりさるりいさるり



題名

友京元真

此ははくまのそとつら橋のまきへおき火のうらまのひ  
兼曆二年の表の合ふよりの

右大辨通俊

まのうらまのね橋とてつら乳をくまの凡のしるま  
屏風は障又花のうらまのよりの

平慈威

花のうらまのね橋とてつら乳をくまの凡のしるま  
屏風は三月花の宴もつら又客のまの  
一とまのふいへおぬまのれいとまのふいへおぬまのれ  
後冷泉院のまのつらもつら時敷のまのつら  
花のうらまのね橋とてつら乳をくまの凡のしるま

良選法師

つら乳をくまの凡のしるま  
通宗の屏風もつら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま

源徳法師

山橋白雲のまのつら乳をくまの凡のしるま  
宇治のまのつら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま

民部卿

いづれ花のうらまのね橋とてつら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま

中洲玄定

橋のうらまのね橋とてつら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま  
つら乳をくまの凡のしるま

源徳法師

まのうらまのね橋とてつら乳をくまの凡のしるま



高湯院の花は、利はまのひて東面の山に  
花はなまよりてきれたる花前を改むるは  
ついでこの院にありてよりなることなること  
たせはなれいひさしとて中へあつては  
なすことなることなることなることなること  
とわゆかさくさなること

新田法師

世中をさすことなることなることなること  
とせとさすことなることなることなること  
つぎねをさすことなることなることなること  
みまさとたゆりことなることなることなること  
とつぎねをさすことなることなることなること  
とせとさすことなることなることなること

かゆたまきまればや梅の花は、秋はよりてよりし  
きりくくれば、一夏の女は、花はなまより川は  
ついでなることなることなることなること  
とせとさすことなることなることなること

伊賀の将

何事とせれば、みまよりなることなることなること  
うかれ、おのちなることなることなることなること  
なすことなることなることなることなること  
とせとさすことなることなることなること

大沼屋の将

きりかたの乃梅、笑ふ事ゆと山の事なることなること  
とせとさすことなることなることなること

若菜法師

音建の八重と立巻の白き、みまよりなることなること  
とせとさすことなることなることなること  
おしじん、みまよりなることなることなること

若菜通宗法師

口よ、みまよりなることなることなることなること  
花のよ、みまよりなることなることなることなること  
ゆかり

良道法師



こふ人も有ふありしは橋らうて地なるはなあれは  
墓名中洲を東山と名付たりは布衣あり  
とてこふ小やうしきて多れもきりせと  
らせゆり  
かむたき

教まては藤のさきんあやふは花のさきりて  
東三宮院の山屏風は藤人の橋をさあを  
よせり  
源道海

交果てはやゆらんあやふは花のさきりて  
あやふは時屏風は藤を花わたりて  
ふ前よふのありをきり

歌者よはさきりては梅あやふは花のさきりて  
大紀を云は花のさきりてはあやふは花のさきりて  
これゆりては花の

花とみれあやふは花のさきりてはあやふは花のさきりて  
中務で具平親王

後拾遺和歌集第二

去下

三月三日とれ花をいひて

花山院御製

みちよてたるは花のさきりてはあやふは花のさきりて

天馬山の屏風は花のさきりてはあやふは花のさきりて

いよちん

源原石補

あやふは花のさきりてはあやふは花のさきりて

世尊寺のさきりてはあやふは花のさきりて

出羽辨

あやふは花のさきりてはあやふは花のさきりて

永承五年六月秋の月報に家言の

ありてこのさきりてはあやふは花のさきりて

源原石補

梅の花あやふは花のさきりてはあやふは花のさきりて



題名

門下

わが世をたもてとてぬ花ゆふまふの心を信じてす  
天徳四年方合り

平慈威

いふもよまもあはれぬ花あはれつたゆへに  
大中治元年方合り

大中治元年方合り

梅あはれぬ花あはれつたゆへに  
厚風松よまもあはれぬ花あはれつたゆへに

いふもよまもあはれぬ花あはれつたゆへに

源道海

心算よまもあはれぬ花あはれつたゆへに  
ち静まのやまもあはれぬ花あはれつたゆへに  
うらまもあはれぬ花あはれつたゆへに  
人もあはれぬ花あはれつたゆへに  
あはれぬ花あはれつたゆへに

石大辨通俊

あはれぬ花あはれつたゆへに

山崎花あはれつたゆへに

梅花道々あはれつたゆへに

清の庭あはれつたゆへに

坂之定成

梅あはれぬ花あはれつたゆへに

花の庭あはれつたゆへに

清原元輔

花の庭あはれつたゆへに

兼房二内表後苗の云合り梅あはれつたゆへに

若菜通宗約信

梅あはれぬ花あはれつたゆへに

題名

永源法師

いふもよまもあはれぬ花あはれつたゆへに

三月あはれぬ花あはれつたゆへに

土山門下通教



うらやましい花のちりやまらん物ありふりしとせよありて  
永徳二年六月廿日新玉日記に此家より一  
命一竹よりあり

大貳三位

吹風をよこすこ橋花んとちりありて一なるあれの  
野を流

中納言定頼

年を流して花よんをくくくしむとせよあり長なるれ  
家れ橋れりてありなるくくくせよあり

大納言

あはれぬ人もよそく橋花あれはよまもせしてやぶ  
白川より花のちりてありたりとせよあり

土佐門右大臣

ゆきやを流してありや白川のありとせよあり  
粟田右大臣のあまのこのわれ花を  
ん竹よりあり

右京局付

を流してとせよあり花のちりありとせよあり  
庭よこすれありてありたりとせよあり

右京局付

風たよ吹くすの庭橋れれとせよあり  
三月よりとせよあり

右京局付

花のちりやよひの月夜ありとせよあり  
庭よこすれあり

右京局付

岩はしり打ててありとせよあり  
庭よこすれあり

右京局付

月輪よりありとせよあり  
庭よこすれあり

右京局付

花のちりありとせよあり



うらやまの心はちりちりよきん物ありのみ力一日せよあて  
永業六年六月廿日新子日記より家より  
金一約よふらん

大氣三位

吹風をよこすこ橋花んとちりちりよきん物ありのみ  
野々原

中納言定規

年々清く花よんやうくくくくくくくくくくくくくくくくく  
家れ橋れちりちりよきん物ありのみ

大納言

おはねんとよきん物ありのみ  
白川より花のちりちりよきん物ありのみ

大納言

ゆきやきやきやきや白川のちりちりよきん物ありのみ  
粟田右大臣のちりちりよきん物ありのみ

大納言

又ゆきやきやきやきや  
おはねんとよきん物ありのみ

をくれてよきん物ありのみ  
おはねんとよきん物ありのみ

大納言

風たよ吹くよきん物ありのみ  
三月よりよきん物ありのみ

大納言

おはねんとよきん物ありのみ  
おはねんとよきん物ありのみ

大納言

おはねんとよきん物ありのみ  
おはねんとよきん物ありのみ

大納言

おはねんとよきん物ありのみ  
おはねんとよきん物ありのみ

大納言

おはねんとよきん物ありのみ  
おはねんとよきん物ありのみ



題名

新文如河

はるやま不降るりししの花いんたをひきす物うくもる

源為基納言

花のそれおてうさせはこはな枝とゆひのめやうふらん

兼曆二年内裏より命りし花をよまら

大内玄実季

あはれはさうくみゆりし花をいさよふれ花をさ

民部卿奉憲をいさよふりし時こ井守あうくこの

命りし花をよまら

よみ人志

信如の志れみうりもむくささかあうてくる花をさ

部三

有原伊家

道をいそいでゆりし花をいさよふれ花をさ

大貳高を

源の志れみうりもむくささかあうてくる花をさ

長久二年弘徽殿女御家より命りかえりし

ゆり

良選法師

みうりもむくささかあうてくる花をさ

部三

有原長

花をいそいでゆりし花をいさよふれ花をさ

法橋は道念法師のゆりし花をいさよふれ花をさ

ちりよふくさるる花をいさよふれ花をさ

法圓法師

我れもむくささかあうてくる花をさ

三月つこもりし花をいさよふれ花をさ

中川玄定頼

花をいさよふれ花をいさよふれ花をさ

三月つこもりの日橋をいさよふれ花をさ

大申長徳宣納言

花をいさよふれ花をいさよふれ花をさ

三月つこもりし花をいさよふれ花をさ

永流法師



こひやう事のみまゝにたゞしく又まゝに列ねられ

後撰遺和歌集卷第三

其

四月二十九日卯

和泉式部

梅多よ深し衣をぬきてさよふとこころをようそは

四月一日卯時 和泉式部

若菜吸物 和泉

時方まてかひし花をよみてさよふとこころをようそは

はの玉れこころをよみてさよふとこころをようそは

新田法師

我者れ指のなまらふ時多しいこゆれとそをほ成るる

冷泉院のちまゝとちまゝの時百首うこなりを

る中よ

源をさへ

なまらむとてさよふとこころをよみてさよふとこころをようそは

都一孫守

曾孫守



柳をばう月をばれは淋はれあはれなり  
心星は水鏡とよみ侍なり

大申長補法

八重きつり藤は門のつよき花をばれ  
心星は水鏡とよみ侍なり

坂東通宗御下

飲たえてく人をもはらひ星我のきんよと  
氏部は春巻をばれは侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

よみ人志るん

白浪は春巻をばれは侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

月影をばれは侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

大申長補法

卯花は侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり

心星は水鏡とよみ侍なり  
心星は水鏡とよみ侍なり



さしおくれ

御川右大臣

子親君ねたう此名のうしてますいさやあうらうらん  
道令宗法師の寄る方まつりせり

藤原尚忠

さしおくれふ福所とて是川れはゆきいりさうらん  
た—— 道令宗法師

是思れ心教ふのころうれおありこもれあみとすしあ  
藤子田親王のわものつとさうりしむり時や居り  
竹ありやとてさうりしむり三宗院取時分院  
竹あり人れりといひしとてさしおくれ  
うこの自わんこらにまつりせり

白雲和尚并他

あまやなだの神心れ時ちうもつれおありあま  
祭のつひいて人らう竹あり人かか  
さうしひよとさしおくれ竹ありを左親やを居

さしおくれまつりせり

備前興伯

節心るわきこころまうれおねんまつけやあま  
四月よりあまのゆきうさり竹あり時ち  
あまこころ人のいひとてさしおくれ

大申后能宣親后

あまこころ君つとてえん能たつていひあま  
いひとてさうり竹ありころお中まつり  
をこころまつりせり

増基法師

あまこころのころ竹節心まつり節の地まつり  
部——す 攝資殿

あまこころのころ竹節心まつり節の地まつり  
承和元年六月の節心まつり節の地まつり  
伊勢左輔

きしはたまつりまつり時馬んまつりまつり



能因法師

あつたあけを尋くさるん能きわこれ松のこころ雪也  
若原意彦の御下

小辨

友のあはさくもやおおいくも能きくしてまにまに人よとや  
福ねむるを故つりぬれ能きく能きあまこころをよめり  
秋子内親王の御下  
おれ一巻をよるん約なりよ

宇治前を政大臣

あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
宇治前を政大臣の御下  
能きよきなり

赤澤清つ

あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり  
桐横ちあまののりゆかまおひせのとりれ  
のとりてわききなりとこきてよかり

大江云實の御下

あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり

法橋の御下

あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり  
長保元年八月十日の御下  
二進國時鳥といふなり

大江和言

あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり

道念法師

あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり  
あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり  
あつた月をたわねやわききしたく一あつたはくともん  
能きよきなり

律師長海



一、あまもてまゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心  
をいへてまゝに習ひし時をこそいひて

能因法師

新編にまゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

大貳三位

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

小辨

神々のまゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

永承六年八月殿との振合まゝに習ひし時をこそいひて

右京陸奥

み月毎の目もそ方ねりし道をまゝに習ひし時をこそいひて

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

所々

み月毎の目もそ方ねりし道をまゝに習ひし時をこそいひて

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

み月毎の目もそ方ねりし道をまゝに習ひし時をこそいひて

板後深野

つれくまに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

み月毎の目もそ方ねりし道をまゝに習ひし時をこそいひて

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

惠美法師

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

永承六年八月殿との振合まゝに習ひし時をこそいひて

真羅法師

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

まゝに習ひし時をこそいひて、身とあまの心

大中尾捕頭



おやれらゝは振さ〜こめよあまなまなかくしと同一は電光  
と〜はするんゆりたりと〜らんおれれてあつり〜と  
と〜と〜と〜のさ月を白く〜

信譽大補

くももふあやめあや先登るぬあ新旅道帯とあぬ  
とれたちを乳を流る

ゆみ

お月あれをちつ〜く〜お花を乳を風や吹らん  
大威言を

昔をい花橋のるあせはなけつ〜あ〜あ〜  
あ〜と〜と〜と〜

源重之

昔とせ〜と〜と〜ゆりちつ〜と〜思ふあ〜あ〜あれ  
字源前を政大臣の海の〜ら〜あ〜ゆり  
あ〜あ〜と〜と〜と〜

春原政純下

はあ〜と〜と〜は福〜と〜ゆり〜あ〜あ〜あ〜

歌三首

徳岡信時

あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜

源重之

あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜

源重之

あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜

源重之

あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜

大威言通

あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜あ〜と〜と〜



あつりしうらなかりなり

氏部卿長歌

友の情と涼しき夕月影の夜白あけ霜とみて

中川玄定歌

床夏れ夕つる夜はくまよの夕月影もあつりしうらな

道深のあつりしうらなと雨夜とこなた月とあつりしうら

つる月影とあつりしうら

能因法師

いづれ人しと夜はあつりしうらと友の夕月影とあつりしうら

歌多しなり

曾祚好忠

さうそと夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら

平基盛

夏ゆつらと夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら

友夜もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

堀川右大臣

夜もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

これの友と夕月影とあつりしうら

門大尉

友の情と夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら

後深のあつりしうらと雨夜とこなた月とあつりしうら

ゆりしなり

源頼隆卿

友の情と夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら

屏風のあつりしうらと夕月影とあつりしうら

ふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

大中臣能宣卿

友の情と夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら

泉のあつりしうらと夕月影とあつりしうら

うらなかり

源師賢朝臣

夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら

六月のあつりしうらと夕月影とあつりしうら

伴勢大輔

あつりしうらと夕月影とあつりしうらと夕月影とあつりしうら



後拾遺初秋集卷之四

秋上

秋初の日かぎり

後正と云ふは

打つげは波崎しるさるに衣り秋はさるるなり

惠文法師

後正亦まき葛れう風のうら出する秋はあまわ

あふされらるるなり

藤原為光

なされ秋のうら力まきく及麻の風をかき

七月のうらうら

小辨

一年のさるるをせむれと衣をいたしめ

七月七日度申あうりてのうら

大江依能

いそぎあけるる人せむれぬたにあつらひの羽衣



七月七日の夜  
小たを

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
くくさけをこころに  
言志しつゝの心をよる人の心

坂川右大臣

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど

と徳乳母

天河の星はたけからたけへ  
長けの夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど

徳因法師

秋の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど

梅元任

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど

右大臣通房

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
の心をよる人の心

新右衛門

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
よあつての心をよる人の心

小辨

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど

右大臣通房

七夕の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど  
七月七日の夜にひく糸は礼儀よくとやうなれど



よみゆかりよみゆかり

ねを中ぬる実

三のしんをひくわ秋の夜は月出しくくゆへり  
花心流るままやう方時雨流るありー  
て秋月をよみてあまひゆかりよみゆかり

大貳高を

秋の夜は月見とわけてよみぬ我とまめの今であえん  
三条右近大長尾をよみてよみゆかりか載る  
ゆて三のよみゆかり者十六人をよみて  
よみゆかりのまらよみゆかりの秋月とよみゆかり

年意感

よみゆかりの世をわけてよみゆかり水と光を流る秋の夜  
土御門右大臣がうかりゆかりは秋月を  
よみゆかり

源をよみゆかり

大分れ月の光をあつむれはるの秋の夜を秋の夜  
河原流るよみゆかり

惠曼法師

すくなく昔のよみゆかりをよみゆかり秋の夜は月

秋の夜は月

永源法師

月と光をあつむれはるの秋の夜を秋の夜は月  
くくくよみゆかりの秋の夜は月をよみゆかり  
よみゆかり

源道海

金木をよみゆかりをよみゆかり秋の夜は月をよみゆかり  
寛和元年八月十日内裏に会ふよみゆかり  
よみゆかり

右原長能

八月の月をよみゆかりをよみゆかり  
八月の月をよみゆかりをよみゆかり  
前大州公位

よみゆかりのよみゆかり世中よみゆかり秋の夜は月  
よみゆかりの月をよみゆかり

右原範永法師



すしんをたのむ里の秋の夜は月のおととまひりしあや  
ひさしくは竹のうらみくまうてまてくう竹  
あるにやあり 素心法師

さふんもあはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜は  
都三つ丸 若菜四郎

白妙の衣の袖は霜とてまてくう八月の光をうら  
八月十又夜うらまあり 惟宗為隆

いづれの月かりせうううはれはゆかりの里は  
堀川右大臣

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜は  
若菜隆成

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜は  
赤澤忠門

とすし秋の夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は  
後人三つ丸

秋はゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

或人云 雲陽院うら八月十又夜月をうら

ゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

若菜隆成

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は

あはれはゆかりの里は夜はとすし秋の夜はとすし秋の夜は



道念法師

少里ハ沙芽ヶ原サヤガハラと云ふところ夜すくも虫けあとの光  
都々丸 平多威

浅茅生れ林の夕暮鳴虫ハ秋こそきたる大物やうけし  
大田匡衡御旨

秋風よ急よわらじ吹せしつゝあまいうるらんさきん  
うねのきーた

鳥あけよもさき根の蒼さり秋の音もさしし  
寛和元年八月十日内書衣前命よりあり

若原長徳

とこもこりかゆくまつらん玉をまかこつねた初房燈  
ひさ〜〜さ〜〜ひさるあらかりれ鳴るりや  
さうさうあり

赤澤中つ

木こもぬ我とこよをせしれ去ゆり一存も鳴也  
後冷泉院山竹名のとやれ今命よりあり

伴勢大輔

と夜涼く蕨のそよも鳴るはさの羽風をむきぬん  
八月より又敷これものこともとてしりて  
ませき夜始なるは露中夜居しりしんを

御製

さして初道もきり居合のまかりとてあつるをさ  
八月こころむしんをさるり

良選法師

遙ほれ雲の松村むく旅はあふちれをゆりくら月の約  
秋のしるし

源政法師

みちあけれわされ約をさるる光たうみねほれ言ふしきぬ  
屏風の多に動しんをさるり  
たり

惠基法師

る月の動引時はな板乃本れ下やまもみりて  
経林るよ人くさうりて心寂秋咲とふ



十のりをよもゆりなり

源朝臣の信

芳りのいし芽うるれ中の着とおは一の藤をたてつこ  
と基の長舟海鳥うくゆりなり時くうてふ  
今一ゆりなりよゆりなり

源

藤の多し秋をきたる乳高かのおつれ松とよとあなれれ

秋威将藤とよとあなれれ

源朝臣

わひとるさくら能すれ小男あれ立交とせぬ秋風さば  
山屋とあをすてゆりなり

大伴氏能宣の信

秋萩のさくもとあなれれあつりゆりなりあなれれ

大伴門右大臣の信

源朝臣の信

秋萩とよとあなれれあなれれあなれれあなれれ  
是れは源朝臣の信

秋の信

安住の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

能因法師

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信

今を信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信

秋の信の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

秋の信の信

秋の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信の信



むきま

つらき

晴のそとにけしき秋音はれちりにまよふ人

天竺僧の深心

あなまをよむとてふ。秋のそとにけしき

物知りな事をもつたててをよむ

伴野太補

ねむりてふとてふ。秋のそとにけしき

えなまをよむとてふ

徳田法時

うらみとてふとてふ。秋のそとにけしき

たれのそとにけしき。秋のそとにけしき

たれのそとにけしき

あつとてふとてふ。秋のそとにけしき

あつとてふとてふ

中川玄吉

人まればとてふ。秋のそとにけしき

八月つとてふとてふ。秋のそとにけしき

和泉或郎

恨あつとてふとてふ。秋のそとにけしき

あつとてふとてふ。秋のそとにけしき

あつとてふとてふ。秋のそとにけしき

あつとてふとてふ

落首乳母

白きとてふとてふ。秋のそとにけしき

秋のそとにけしき

梅村七

まよふとてふとてふ。秋のそとにけしき

歌よみ

深時徳

あつとてふとてふ。秋のそとにけしき

青尔通家

秋のそとにけしき



まむらのあはれと云ふなり

坂原龍平の巻

と物まのれはあはれあはれぬ物なりやまのりあはれ  
よとそむさてのちいれ物なりやあはれをすさ  
ゆくとあはれ

まふてはし

いとれのあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれ

坂原龍平

さうたれまうあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

寛和元年八月七日内書表三の巻に後付

あ

橘原あはれ

いふてまふあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれ

坂原龍平

袖はあはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

七山門あはれあはれあはれあはれ

源龍平

秋のあはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

秋のあはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

のあはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

大申長徳宣の巻

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

人のあはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれあはれ

坂原龍平

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

梅剛七

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれ

坂原龍平

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれにせしー袖はあはれあはれ



清原元輔

秋の夕暮をききわたり花のよひをとりて者もさう  
毎家有秋とふらん

御製歌

春のいづれか花のよきや梅すらんおとけりせぬ事さう  
歌きしん

深谷海

よはりのそとにひかりのききよきおとけりし海よわら  
あさふかきあり

和泉武尊

あさふかきあり

深谷海

いづれか花のよきや梅すらんおとけりし海よわら  
梅は秋の八月よりさうひさしう満ちせぬ

さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら  
さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら

秋の夕暮

さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら

秋の夕暮をききわたり花のよひをとりて者もさう  
毎家有秋とふらん

秋の夕暮をききわたり花のよひをとりて者もさう  
毎家有秋とふらん

三条小右衛門

さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら

信長之妻

さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら

さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら

さうてはよきや梅すらんおとけりし海よわら



大羽玄隆伝母

ゆめが川を流す音の絶くなくも人れ神のこゆり人  
去水門在太尾玄隆今たよふなり

若菜経傳

定方花凡のゆすの花落すつらとましくこふみそ  
神花をよとてあそふとふんやよみ信り

源師賢傳信

ゆつてたふのとり秋のたいととまわく花落る  
天唐山時沙屠凡又八月十五夜か裁うた

清原元輔

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り  
わつとふりゆつて水も花をよとてあそふ

大甲尾経宣傳下

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り  
夜福花をよとてあそふとふんやよみ信り

開包かた大信

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り

思野花といふなりとよあり

良選法師

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り  
板巻流のあそひの合しゆ多りよ庭は秋のふ  
とほくすしゆとふんやよみ信り

源朝政朝信

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り  
残菊の干葉花をよとてあそふとふんやよみ信り

源朝政

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り  
あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り

良選法師

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り  
あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り

和泉玄部

あそひの花をよとてあそふとふんやよみ信り



後拾遺和歌集卷第六

秋下

永兼四年内書衣の言合は揚衣をよみけ  
中御公資盛

かゝ衣衣衣をいづるあまの我をわけてもめしつるれ  
伊勢大輔

さよまてんまてん門あまのいれぬんをねられりけり  
友原意房御下

いづねはねを交ねん唐衣うつあまをくわ場り也  
花山院前より後拾遺をよみ侍たり

すねのなまししてみ秋のよみ月をぬんれりあまを  
若原長能

選子内親をいつてこころこころえたる時九月廿  
日あまのあまをいづるあまをいづるあまを

ふこころいづるあまをいづるあまをいづるあまを  
いひてよみ侍たりけり



歌院中勢

月よりしつと風の音をききしむらさき

心算枯風といふものなりとよかり

大友盛前

心算此歌のまこといひよとあはれしるるを風れりせ

歌よるれ

源道海

みまもせおきよしるる心算いれしるるを六指三原る

永兼曰は門裏に今な

堀川右大臣

いふれおれし時あはれきよしるるをたれれしるる

空流まてんくもしらとともくあはれしるる

みゆりかよるる

右京隆徳

日とゆつてあはれおきよしるるをたれれしるる

長あはれしるるみゆりかよるる人れりしるる

くらひかよるるしるるあはれしるる

上東門院中乃

いれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

屏風の急よるるあはれしるる

よかり

右京右大臣隆下

あはれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

もみらるるあはれしるる

ませしるるあはれしるる

右大辨通俊

いふれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

あはれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

あはれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

西宮法師

あはれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

あはれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

あはれしるるあはれおきよしるるをたれれしるる

大貳三位



はつらん方てあつた人教うて惟まきん白菊風  
と東つ地菊ありせせはつらん方てあつた人  
つらつらとてよきなり

伊勢左輔

地とつれあつた人てあつた人白菊風ありはつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまおん

後冷泉院の時の交りてんく秋庭菊  
まて陰竹なり

大徳寺長生

菊のつれはさきさきとてあつた人白菊のつれはさき  
菊のつれはさきとてあつた人

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまおん

まてにたよんつら菊の交りてんく秋庭菊  
天曆の時の屏風ありてんく秋庭菊

まてにたよんつら菊の交りてんく秋庭菊  
まてにたよんつら菊の交りてんく秋庭菊

まてにたよん

うすくまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
屏風の交りてんく秋庭菊

うすくまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
うすくまを深つら菊はれつらん方てあつた人

大徳寺長生

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまおん

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまおん

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人  
おんやまを深つら菊はれつらん方てあつた人

おんやまおん



我のこやねをくくつふり里れ難の道とつらひはわ  
永兼の月夜に命を孫兼とてあり

中納言賢徳

はなとつらひのしをきぬれぬとつらひとつらひ  
宮内少輔正月入道右近大将大藏卿の  
屏風の影はささよふかしく女あはれなまじ  
みちもとてありふとつらひとつらひ

おきつるに

ふりしおきふかやうかたなまじとつらひとつらひ  
屏風の影はささよふかしく女あはれなまじ  
みちもとてありふとつらひとつらひ

平賀盛

かろくしとつらひとつらひとつらひとつらひ  
心置はまよひつらひとつらひとつらひ

清原元輔

ねまふらつらひとつらひとつらひとつらひ  
月前はあまのつらひとつらひとつらひ

新製

おきつらひとつらひとつらひとつらひ  
おきつらひとつらひとつらひとつらひ

法下清成

紅葉らつらひとつらひとつらひとつらひ  
こきつらひとつらひとつらひとつらひ

堀河右大臣

おきつらひとつらひとつらひとつらひ  
大井河まじつらひとつらひとつらひ

中納言定頼

おきつらひとつらひとつらひとつらひ  
永兼四年の裏に命をよきつらひ

徳田法師

おきつらひとつらひとつらひとつらひ  
おきつらひとつらひとつらひとつらひ

清原元輔



あふりともさうきくさるいさのそ秋の時ふれ海風う

後平泉流石の時ふれ<sup>まの</sup>あ合よさる

伊勢の太補

秋の夜ふらふれを又備書れ先のこころとくしとふれ  
師賢の長梅付けのこころとくしとふれ  
いふれとくしとふれ 源朝臣の太

常をこころとふれとくしとくしとくしとくしとくしとくし

とふれ門友の長梅付けのこころとくしとふれ

伊勢の太

秋の夜ふらふれを又備書れ先のこころとくしとふれ

源朝臣の太

夕日さすそのこころとくしとくしとくしとくしとくし

九月書日情秋とくしとくしとくし

若原記永の長

あふれふらふれとくしとくしとくしとくしとくし

九月書日情秋とくしとくしとくし

ゆきとくしとくしとくしとくしとくしとくしとくし

九月書日情秋とくしとくしとくし

源朝臣の太

秋の夜ふらふれを又備書れ先のこころとくしとふれ

九月書日情秋とくしとくしとくし

源朝臣の太

あふれふらふれとくしとくしとくしとくしとくし

九月書日情秋とくしとくしとくし

源朝臣の太

あふれふらふれとくしとくしとくしとくしとくし



後拾遺和歌集第六

冬

十月のついでにらふのちれこも大井河よまう  
ついでにらふのちれこも大井河よまう

前右衛門左大臣

藤つとらねをふとみれ大井川のせはれはれと南のそ  
十月のついでにらふのちれこも大井河よまう

大僧正深覚

きこしけもあつこくあふれつとれ能くあふれ  
兼保三年十月今とみくわのついでにらふ大井河  
よまう

山梨家

大井河よまうのちれこも大井河よまう  
かつらねのちれこも大井河よまう  
ふ

前右衛門左大臣



これらも終まで通る時魚もあつて人ともなほ行つて  
山里八時魚と云ふ所なり

永流法師

此寺より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

源光宗

本村より南へ一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

此寺より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

十月廿二日里より通つて一里なり

能因法師

能因寺より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

宇治より一里の所より通つて一里なり

橘通法師

細川本より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

言ふ所なり

中文法師

宇治川本より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

有原孝吉

有原寺より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

堀川本

堀川本より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

さくら

さくら寺より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

さくら

さくら寺より一里の所より通つて来て一里  
ありぬる所なり

大蔵三郎



この書はなまのころからあつた人なりなるといふそのむねは  
部一す 増基は所

あはれおもしろいなるおぼえして地をよわよわのひびききこ  
障子よゆさこのあーたわうーいぬり所  
よみ竹々々

成於つ長教

とやうなまのころの書はこゝろのいふをいふおぼえ  
たりぬりすあり 能同法師

律師長洲

おろしぬちともやまらんすめりの書はゆとらぬす  
莊原と頼れよまのすめりのあつたすめり風ぬれ  
屏風の多ふ十一月のすめりの人のおとす

大中臣能宣親下

頼れのまのすめりいふておれをすてぬりすめり地  
頼れのまのすめり

か補

頼れはしつゝおろしぬちのまのすめりいふておれをすてぬりすめり地  
頼れまのすめりいふておれをすてぬりすめり地

よこへんまの

あはれおもしろいなるおぼえして地をよわよわのひびききこ  
杖の板をすめりよあけり園のまのすめりいふておれをすてぬりすめり地

櫛後深の長

よこへんまのすめりいふておれをすてぬりすめり地  
永兼四年内書はすめりいふておれをすてぬりすめり地

ゆゑ

あはれおもしろいなるおぼえして地をよわよわのひびききこ  
うつゝ火をすめりいふておれをすてぬりすめり地  
まふて法師

烽火のあつたはまのすめりいふておれをすてぬりすめり地



海峽或は此れ見しれ家より松のうられをせし  
りふんをんくしるもゆかりよふかり

若菜園行

法皇を松のうらへし海峽れをりし海峽ゆかり  
隆延朝長甲斐守りてゆかり時たうり  
あつてつるり

紀伊式部

いひしひの白根さくねるを海峽とひひぬれ  
心のきとよみゆかり

能因法師

ねるゆへにれ中よ志のひしひのきぬいをゆかり  
源道海

物別をりてをりてをりてをりてをりてをりて  
そよ法師

若菜園行

あつ道みよをりてをりてをりてをりてをりて

いふたの海峽れは志ありあの志をいふる

海峽の志とふんをり

津島園巻

海峽の志とふんをりてをりてをりてをりて

海峽の志とふんをりてをりてをりてをりて

あつとふんをり

若菜園行

あつとふんをりてをりてをりてをりてをりて

道雅三位の八条の志とふんをりしよ

のあつとふんをりてをりてをりてをりて

若菜園行

あつとふんをりてをりてをりてをりてをりて

源朝臣朝臣

あつとふんをりてをりてをりてをりてをりて

あつとふんをりてをりてをりてをりてをりて

あつとふんをりてをりてをりてをりて



伝寐法師

思ひおれをせし海をゆりて致路又ある人のまこと

部志

いもあまふ

あつてまはる旅籠をめぐり大原のれをれ村治

天曆の世の時屏凡の多又十二月ゆきこれ

ふあをとり

清原元輔

我者又降れしををまよふ年あしぬまねをれをれ

きふわあさた細云を位のりつるしり

入道おた政大臣

おれをを移るんとてと最ふ方里をたてとく

き降てゆきあしこむを免れりんとてあ

前大臣云云位

唯まふ年とええを極多りたれたうあまふとん

為少しとあつり 新をい

さしひらむしとくかたねの昔の束いふたの

新一巻

杖差法師

さよふらまはれけやあらんをさうあむ志を

入道おた政大臣のまゆれととくくをの杖取

傍於長年

瑞くくまれをさしひのありはれ池ありハ少中

部志

常縁好

家子ハ少のさしひうらてあまのめをふり

前京者

むをむれをてあふ京池の志とてあやゆとま

後三条院東宮とてあふ時殿とて人

このそりゆりしとまのゆり

前京明徳初

白妙のふらけのあつりあつりあつりあつり

十二月のつこまゆりあつりあつりあつり

あつりあつり

源為長初

まよふ八年のまよふあつりあつりあつり



後撰遺和詩集第七

賀

天曆御時賀以屏風并立春

源順

くさぬりあまうらひにちとせぬまゝあはれ敷を  
入道折政の賀しゆり屏風まなうらひ  
のかささくぬりそまはるるなり

平貞盛

折もせぬまゝ此稿のちし板かきここのみくもすま  
おけし屏風まむさうのかささくまてゆり  
まよふなり

むさしめいさだゆきまらほせの末をさくらむれ  
東三条院早賀しゆり屏風まま目  
ておさくさうさうまもあつてこまのくま  
まよふなり 源為隆

まはたな門のれれぬれはすまをむらさけはささ



前大僧正明言の千智一竹のりよ字御かた  
政大臣のけのつえつりーかむりよよみの  
あり

前律師兼又選

君をいの年けりくあねれいものさゆくつえん城司  
に裏の心屋凡よいのらなる凡人の心よ恵つり  
あつこころりせ

平心威

表林もとてく平切りあむいひ恵とつりこれ年をたて  
屏凡の心ようんれをりよあれひしりあり  
あり

源忍隆

一とこれ恵の志しりこののこ切さんをれ世とつれ  
歌しり

よみ人志

君をいひよあふんをけり恵れりちよと社れ  
後一平院うあれをり七世よんくまひり  
ありてあむかさつりしをりつりあ  
むしりあ

むしりあ

めつりしをりしりあ恵はとらなるりてり世とつれ  
後一平院うあれをり七世よのり

あむか

いふをれ恵神のせりよあれり<sup>上</sup>とあむしり  
歌しり

よみ人志

君よ六世もあつりあむか<sup>上</sup>ひああつた  
或人云げ三七世よ中羽玄空れりあり  
故弟一親りあれりりつりつりあ

右大臣

むしりあむか<sup>上</sup>に事あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>ひ  
あつりりりあむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>  
是とあむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>  
かめ教教こころりあむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>

清原元輔

外に事あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>  
臣房あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>あむか<sup>上</sup>



てつものいそぐよみなり

赤澤湯門

まよふふのあふんまふとむくくれつれも衣年ふなるは  
おれ一七ねよよみゆかり

なれといのうれ井のうきうきしたるね家の風をそるる  
故中一親そのいうさうさくせきふよ実白あなま  
ち最さうの事あそてうちもさうしゆゆゆ  
いふれの内大屋下らううゆかり時ここさ  
わてゆかりとそてよめり

衣た片

千のゆかりふれまようけて社若のまよふとるひま  
ふとたちをたふ泉流報まよあてのちよゆ  
せもゆひかり

花山院湯割製

うふ事今ふさくれ標子ぬ家さうらうあねとあひ  
ほ三ふ流又このまよやうり時今とあふれ

そおりせかりよゆりまよとあつてふまひ  
せふれかえをみまてくゆゆとるかり  
よみゆかり

伴響た物

最とれはらうも回さうてふ代のよひひのこまよまよ流  
ぬ一

雨流贈を政大臣

思ふちこ流れえまねくしてさうん氣まうれさうま  
むまこのおささうさうさうのふい一ふゆま  
のらつものころちよれさうさうおのひつら  
ひひまよとせてゆかりなをさうりり

若三位

さひやれやうさう流れこのおひまをさせしとるつら袖ねさ  
紀作ちる光おささうさうさうさうさうさうさうさう  
いてさうまふといひゆかりなを

清宗元補

まよまよさうんぬかさうのふれらひられ流のま砂せんわ



人代とて物多しと云ふ

恒高れ浦の玉とてはひあけ流れぬのほろこり  
人代とて物多しと云ふのこともよもほしとせむ  
ふりきりせむと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
と云ふて

源高れ浦

しるくはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
大中后補長たるゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
ちりて補叙と賞なりと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

高原保昌朝臣

わしこのあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
三条院みくこのまゝと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
合ふと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

大はあはれ

君はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
兼廣二年内裏との合ふと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

高はあはれ

君はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

高はあはれ

高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

高はあはれ

高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

高はあはれ

高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

高はあはれ

高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ  
高はあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれと云ふはあはれ

高はあはれ



そよふとらうせ落るるよ

小太郎

春まめふふのりあきなるゆかり  
けれはるるにひたひた  
開白かたまうららみふふ家又もつあは  
きめ竹分り時流あふくまあめこのふん  
んくよき竹分り

若原筑正おのり

いとーたは流と三ゆり流あは外をて信人親を新  
とつるのおのり母殿守まう竹分り時われよ  
れは時のまつわれ使まてあられ花をわす  
ゆかりとみて

辰遷法師

多世とらん最わかせる友の花松まうゆかりち社すれ  
後次泉院水時大尊舎る巾着風を信玉巻  
心松樹あま 武部大輔賢業  
あまのふたのまうとゆかりあはれまうる松風まう

おのり 水唐船は大会心とよまかり

うまはるる大会心と立たれはふこまわらえくかつこ  
陽明つゆまうまうとこまわらえくかつこ  
たりとこまわら

江侍従

雲はあめよそまかりあはれまうるはとて社殿入りまれ



後拾遺和歌集卷第八

別

冬之浦報み那之すあけくそん  
と一あけり 野 農花ふれ色  
ちるやとそたれこりあんこす  
とひさりつりたる

惠安法師

おとふんぬれ秋をまくるはる君さうあせはれとおほ  
色

冬之浦報

おとふんぬれ秋をまくるはる君さうあせはれとおほ  
あ中一とあ 色あこまこ農こ色や  
りさうやたれあかりたるるうそ  
とあれい急れと一とあこつ音  
きり

源道深















志なきのありてはらむしやれをけむしけむし  
てうらむせうてうらむせう

源為朝御

若くは年とれりて別れは道もや甚かき人となり  
あつては富よあ申すまゝとておれりてはいつり  
しつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
こゆりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
てゆりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

冬色補親

おほれ言ちこゆりつりつりつりつりつりつりつり  
橘道貞是定とてつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

赤澤朝

ゆりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
おひつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

中原朝成

いつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
女もつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
おれつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

祭豆補親

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

若菜前伝

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

運敏法師

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

大い言

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり



りーせり

かちぬまに伝

天河のられまふらちりけささどいつたおぬあかちか

人唐一ゆきまみちより原心うせんとんごう

ゆりせり

藤原法師

その能と致す方様の列した道へのまれよきおん

成るはゆりあちりよまもあちり後母

の作せりしり

よみ人まゝ

いふらわやとあゆみそて勢だんいしきよまもきんねり

後拾遺和歌集第九

異稿

しひうりわたりゆきまみちりよまもあちり後母

とよきゆりせり

堀河をぬた伝

お後の言といふとそりてまみちあをいえりそとあちり後母

十年中よまもあちりよまもあちり後母

まひれまみちりよまもあちり後母

前かぬまに伝

ゆ道のぬきふのまもあちりよまもあちり後母

とよ

中かぬまに伝

あちり後母の言といふとそりてまみちあをいえりそとあちり後母

くまもあちり後母の言といふとそりてまみちあをいえりそとあちり後母

あまあちり後母の言といふとそりてまみちあをいえりそとあちり後母

花山院の御歌

花山院の御歌の言といふとそりてまみちあをいえりそとあちり後母















いふまゝの十二月の十日より毎日のめて  
しるこころのありたり

式部左補資景

いふこころのありたり  
しるこころのありたり  
しるこころのありたり

右大辨通俊

あきらめしむるは  
あきらめしむるは  
あきらめしむるは

橘乃仲納言

いふまゝのありたり  
いふまゝのありたり  
いふまゝのありたり

源道深

いふまゝのありたり  
いふまゝのありたり  
いふまゝのありたり

おのりみちのり

いふまゝのありたり  
いふまゝのありたり  
いふまゝのありたり







三条院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
月あつてゆかりまゝなり

命婦乳母

なまなみさうなうの御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
さうなうの御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦御光

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦御成

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦御衣

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦御筆

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦御栞

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ

命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ  
命婦院の御堂をなまなみされ給てさうなうのよ



山田中務

そか新しむれどくーとていふはさかしくも秋よあひわれ  
ねるーとてあまのやよゆより人れとてい  
つりーある

さくらん

とりやとてやうたよあまのさかといふはさかしくも秋よあひわれ  
やー

大和宣旨

源川なかくとておとさぬや袖しりやとていふはさかしくも秋よあひわれ  
後一多流のさか中よあまの月まやせ給て後集  
崔流のさかすも弘徽殿中よあまの八月まよれ  
給よまれのさかやとり竹より伊勢かめり許  
よつりーある

前中よあま

伊のめ最給て後集さかぬ力たよまのれー秋の長を  
ねるよ給給成力さかめりよまのさかといふは  
さかといふはあつひるさかんとて伊勢かめり許

さかといふはあつひるさかんとて伊勢かめり許

小たか

よそよとて袖もさかすも柏まののさかといふはさかしくも秋よあひわれ  
雲よよとてあまのさかといふはさかしくも秋よあひわれ  
さかといふはあつひるさかんとて伊勢かめり許  
れいみさかといふは

能因法師

さかといふはあつひるさかんとて伊勢かめり許  
ねるよ給給成力さかめりよまのさかといふは  
ろとてあつひるさかんとて伊勢かめり許

大和宣旨

いさつ中流のさか風の吹くさかのあまのさかといふは  
おやあつひるさかんとて伊勢かめり許  
さかといふはあつひるさかんとて伊勢かめり許

よみ人さか

いさつ中流のさか風



出羽の辨りあやまられてゆかりとてさうて  
をいつたといふと教のりしてさうてさうてさうてよ  
こゆかり

ふたつに澄國

出羽判り人の出づるはさうてさうてさうてさうて

せー

出羽辨

出づるはさうてさうてさうてさうてさうてさうて

高澄成棟らにをられまかりとてさうてさうて

たの

井文内傳

わさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

信原元輔うかすりてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

つらうてさうてさうて

源順

香林の元の傍にぬきとてさうてさうてさうてさうて

袖則長よりさうてかられゆまかりさうてさうて

さうてさうてさうて

橘喜通

出づるはさうてさうてさうてさうてさうてさうて

後冷泉院れぬきとてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

東つ院のさうてさうてさうてさうてさうてさうて

りり 或部令旨

出づるはさうてさうてさうてさうてさうてさうて

後三条院さうてさうてさうてさうてさうてさうて

たれひさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

同防内傳

お丹多あさぬきとてさうてさうてさうてさうて

二条院前右政大臣のさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

中納言定家母



あはれおつしむえおれわさうなるに程足これ  
子よふれてゆりせりころの夏まふてよき竹  
ころ

若原実方の朝信

うらぬのこれの夏れもるにまめぬやうに  
ちれ力さうりいこよふ竹のり

若原相如女

若原と新し人の旅もなく又我原よおそし  
おれ方の雲田おた片方まよめてはは夏  
よらぬけゆきこのあて竹のり夏ま  
てみもあふなふみさう縁ハ新くねい  
おしよをきいこよふて竹のり  
くぬきしむれをさうりし人いひこ  
地ひ竹のりま女のねもさうりまふり  
おのおやれおんはりーせり

若原実方の朝信

改らてこのおめも生きた雨うり志てこもやま

一糸接政方ゆりてはわされしあしうて  
ん〜りり〜ふりりゆられ

かむ若原若者

今とていひ別るめり村居れ方まに終るむし  
中或部内ゆた〜りてむまこもは竹のり  
と〜〜〜ふんゆり

い〜〜〜

とめまて誰や春れとんこにゆらうんこ  
一糸流らせゆりゆら〜この花れ竹のり  
後一糸流おさ〜お〜ま〜てふん  
志〜と〜せゆひまれのあけ〜ゆり  
あ〜〜ん

上東門流

ふりまにゆりこおれゆり〜心と知ぬる  
みらぬの竹のり海もよおふんを  
てゆりふおの人身ま〜ては林みゆり







かぬまきくながめありけたり申すは  
こころもさだめあり百和香とあり  
いれあせうと撰政物語より

選子内親王

はれるつらう花をすくはるるこよはれ形んこそ  
おのりくちありあきなりおとこなくありて竹  
ちりよきとふもいれり人ばかりてとされ  
女のもさたりあり

伴舞大補

深さこそなれ親八曲よりあはれあり  
ふくまの竹ありて十月一日あり  
人まれのまあんねありすこころとひびき  
あせて竹ありあり

康資之母

君のまや花れまも立ちて殺のあはれあり  
赤深巨備よとされてのち五月あり

ていりありあり

義光三位

雲深れ親いこく立ちてあやめれるのわやまけり  
園部院法皇らせせ給ひて又のちこれ  
あまのこよきとありてあやめり  
ゆかりありとの義三位のつらひよ  
ふみよあひはれりまねとしてかこ  
いれさせ給ひあり

一宗院以親

あれとて形んとてをたよはちりやまのま  
はる泉院くわおつを給ひあれ  
ありて竹ありて又のまこれ  
あまのあまうて竹ありて人のあ  
てとてありあり

西麻京殿か女御

こころもさだめありていれ  
あまのあまうて竹ありて人のあ



成瀬よとれはうてよのこゝろのこゝろ  
ゆきよ 伴誓右補

別れの目もわらわのこゝろをいさよとゆきぬを  
とこゝろすこゆきぬをいさよとゆきぬを  
とてれわさつらまのこゝろをいさよとゆきぬを

紀時文

年をとつておれうを別れさすこゝろをいさよとゆきぬを  
成瀬よとれはうてよのこゝろのこゝろ

別れんをいさよとゆきぬをいさよとゆきぬを  
はなれんをいさよとゆきぬをいさよとゆきぬを

あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを  
あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを

おゆき

我がよいさよとゆきぬをいさよとゆきぬを  
とれよとゆきぬをいさよとゆきぬを

平棟伴

おひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを  
あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを

おゆき

あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを  
あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを

赤澤

あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを  
あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを

おゆき

あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを  
あしひきよとせつてゆきぬをいさよとゆきぬを

おゆき







まろくちのしんれい神もろくちねまのしんれい  
このしんれいもろくちのしんれい  
まろくちのしんれいもろくちのしんれい  
あしゆり

まろくちのしんれいもろくちのしんれい  
まろくちのしんれいもろくちのしんれい  
まろくちのしんれいもろくちのしんれい  
まろくちのしんれいもろくちのしんれい

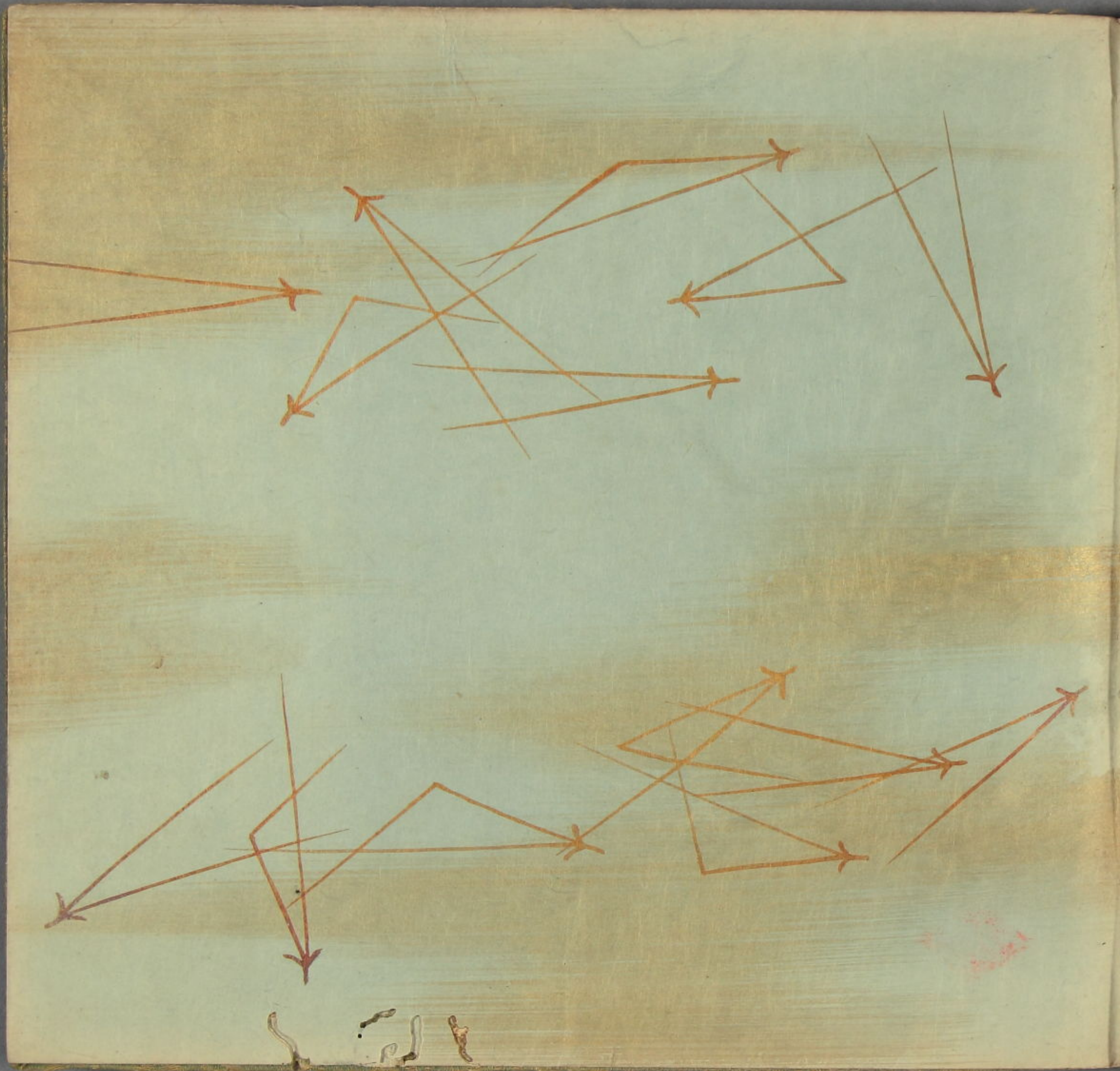
まろくちのしんれいもろくちのしんれい

まろくちのしんれいもろくちのしんれい

まろくちのしんれいもろくちのしんれい

まろくちのしんれいもろくちのしんれい





紅印



